

令和8年度 卓球部の指導方針等について

1 指導体制

顧問教諭氏名		外部指導員氏名	資格等や経験	頻度
主顧問	加藤			
副顧問	長田			
副顧問	宮永			
副顧問	宮澤			
副顧問	新埜			

2 年間目標

- (1) 学校の教育目標を受けた目指す生徒像
 - ・日々の練習を通して、健康で豊かな心と丈夫な体を育てる。
 - ・卓球という競技を通して、自ら学び、考え、主体的に行動する力を育てる。
 - ・生涯関わることのできるスポーツとして、豊かな情操を育み、社会性や規範意識を育てる。
 - ・部活動での関わりを通してキャリア形成を支援し、企業就労に必要な基本的な知識・技能・態度を育成する。
 - ・生徒一人ひとりが、学校を代表する社会の一員としての自覚を育て、地域社会に貢献しようとする意欲や態度を育成する。
- (2) 競技大会、コンクール、研究発表等の具体的到達目標
障害者スポーツ大会や一般に開催される各種大会出場での勝利を目指して、日々の練習に取り組む。
- (3) 地域貢献等の特色ある目標
障害者スポーツセンターや各市町村で開催されるイベントや大会に積極的に参加し、地域での余暇利用、公共機関の利用等も含めた活動をおこなっていく。

3 指導方針

- (1) 部活動の質と量の工夫
練習は、指導者の会議日程等を考慮しながら、週に3～4日間を原則とする。練習時間は平日1時間30分程度、休日に実施する場合は3時間程度を基本とし、意欲的に活動できるように工夫する。
- (2) 練習や試合等の計画
地域での練習会や大会、他校との練習試合等、日頃の練習の成果を発揮できる場を設け、技術や意欲の向上を図れるようにする。
練習試合については随時各校との調整をしていく。
- (3) 基本的な生活習慣や規範意識等の健全育成
挨拶の励行、正しい言葉遣い、協調性、上下関係、社会でのルールやマナー等について日ごろから触れ、よりよい人格形成の一助となるようにする。
- (4) 生徒相互の人間関係
部長を中心とし、練習や試合など集団で行動できるようお互いに協力をしていく。
- (5) 学習と部活動
学習と部活動の両立を図るために、保護者と連携をとりながら指導する。

4 指導内容・方法

(1) 体罰・暴言等のない指導

- ・科学的トレーニングやスポーツ理論に基づく指導により、体罰、暴力的指導のない部活動を展開していく。その際、体罰関連行為のガイドラインや体罰根絶映像資料（DVD）を活用して、顧問と外部指導員で共通理解を図る。

(2) 生徒間の暴力禁止

- ・運動部活動の生徒に対して、上級生から下級生へ、同級生同士の間で暴力により問題解決を図ることのないよう、日頃からの指導を徹底する。

(3) 外部指導員の活用

- ・顧問と外部指導員のそれぞれの役割について話し合い、共通理解を図った上で指導を行う。

(4) 事故防止・安全配慮

- ・生徒の心身の発育・発達や体力・技術等を適切に把握して活動計画を立てる。

5 主な年間計画

学 期	月	内 容
前期	4	・新入生歓迎会 ・仮入部期間
	5	・東京都障害者スポーツ大会参加（全員）
	6	
	7	・部活動推進週間 ・夏季休業中練習及び他校での練習試合
	8	・部活動推進週間 ・夏季休業中練習及び他校での練習試合
	9	
後期	10	・他校での練習試合
	11	・東京都知的障害者卓球交流大会（全員）
	12	・冬季休業中 練習及び他校との練習試合
	1	・他校との練習試合
	2	・東京CUP卓球大会（東京都障害者総合スポーツセンター）（任意）
	3	・春季休業中練習及び他校での練習試合